

確定的影響

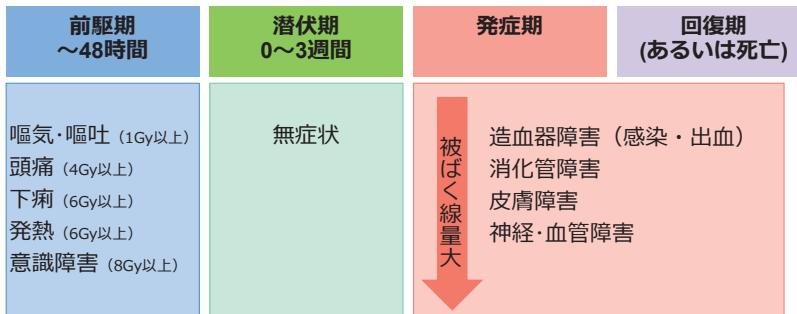
急性放射線症

急性放射線症の病期

被ばく時



時間経過



※全身に1グレイ（1,000ミリグレイ）以上の放射線を一度に受けた場合に見られる急性放射線症

Gy : グレイ 出典：（公財）原子力安全研究協会 緊急被ばく医療研修テキスト「放射線の基礎知識」

全身に1グレイ（1,000ミリグレイ）以上の放射線を一度に受けた場合、さまざまな臓器・組織に障害が生じ、複雑な臨床経過を辿ります。この一連の臓器障害を、急性放射線症と呼びます。この時間経過をみると、典型的には、前駆期、潜伏期、発症期の経過をたどり、その後、回復するか死します。

被ばく後48時間以内に見られる前駆症状により、おおよその被ばく量を推定することができます。1グレイ以上の被ばくで、食欲不振、恶心、嘔吐と言った症状が見られることがあります。4グレイ以上の被ばくをした場合、頭痛などを訴えることがあります。6グレイ以上被ばくした場合、下痢や発熱といった症状が現れることがあります。

その後、潜伏期を経て、発症期に入ると、線量増加とともに造血器障害、消化管障害、神経血管障害の順で障害が現れます。これらの障害は、放射線感受性の高い臓器や組織を中心に現れます。概して線量が多いほど潜伏期は短くなります。

皮膚は大人の体で $1.3 \sim 1.8m^2$ とかなり大きな面積を持つ組織です。被ばく直後に初期皮膚紅斑がでることもありますが、一般に皮膚障害は、被ばく後2～3週間経つてから現れます。

本資料への収録日：2013年3月31日

改訂日：2015年3月31日